

式 辞

やわらかな日差しに春を感じさせる本日、ここに、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度長野県蓼科高等学校の入学式を挙げてまいりますことを、心より感謝し御礼申し上げます。

本校は百二十年を超える歴史と伝統ある学校です。初代校長の保科百助先生の教育理念を基本に、普通高校として、一人ひとりの学びを充実したものとするコース制を取り入れ教育活動を行っています。また、地元と連携した「蓼科学」や「地域」、更に公設学習塾である「ポプラアカデミー」を特色として展開しています。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。「蓼高」の愛称で親しまれる本校へようこそ。教職員一同こころより歓迎をいたします。

皆さんは今日から蓼科高校生としての新しい生活が始まるわけですが、これまでの生活とこれからの生活は本質的に大きく異なります。

高校では、様々なことを自分でデザインしなければなりません。それは、決められたルールの上でなく、本当の意味での自分の適性を考え、個性を伸ばし、生きがいについて考えることです。そして、そのことを自分の希望する進路の実現につなげることです。

そのためには、何よりもまず夢を持つことです。

夢は、人が生きるための目標でもあります。ただ、その夢も単なる憧れだけでは夢のまま終わってしまいます。私はむしろ夢というよりは志を持って欲しいと思います。では、夢と志はどこが違うのでしょうか。「夢はいつまでも追いつける憧れだが、志には締め切りがある」と言った人がいます。私もそう思います。締め切りがあるから、一年後に実現させるとか、三年後とか四年後とか、達成するための期限を切らねばなりません。そして、そのために決断した締切日から逆算して、今月はこれをやり、今週はこうするという行動計画を作成するのです。そうすることで、皆さんは確かな志を持って自分の夢の実現に向けて、充実した高校生活を送ることができるはずです。

もう一つ皆さんに話しておきたいことがあります。それは、学校は集団で学ぶ場であるということです。先輩や後輩、同年の友達や先生方、また地域の人たちなど、多くの人との出会いがあり、そうした人たちとともに様々な知識や技能を身につけ、自らを高めていく場が学校です。

イギリスの冒険家ラポックは

「他人と比較して他人が自分より優れていたとしても、それは恥ではない。しかし、去年の自分より今年の自分が優れていないのは、立派な恥だ」

と語っています。他人との比較ではなく、自分自身との比較を通して成長することの大切さを述べた言葉だと思います。

集団は他の人と競うためにあるものではありません。互いを高めあうためにあるのです。いい集団は、そこに所属する一人ひとりの力や個性を伸ばすことができます。個人のために集団があり、いい集団を作るために個人の力が必要となるのです。

本校は、生徒同士が互いに協力し合い、高めあうことで、一人ひとりの力を伸ばせる「いい集団」でありたいと願っています。皆さんはクラスやクラブなど、様々な集団を大切にしながら、日々成長を続けて欲しいと思います。

最後になりましたが、本日ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学誠にありがとうございます。時代の変化、社会の変化に伴い、今、学校教育は大きく変わろうとしています。しかし、一人ひとりの生徒の自己実現を図り、次世代を担う人間を育てるといふ教育本来の役割にはいささかの変化もありません。そして、それは全ての大人の責任であり、そのためには学校と家庭が協力し、同じ思いで子どもたちと接し、育てることが必要だと考えます。学校との連携を密にしながら、ご家庭でも子どもたちと話し合う機会を大切にし、その成長を温かく見守っていただきたいと思います。蓼科高校での生活を意義あるものにするのは、まず生徒自身の努力ですが、それを支えるため私ども教職員一同全力を尽くす所存でありますので、どうか皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、新入生諸君、今日、今から、大きな志を立て、思う存分励み、大いに躍動し、この三年間の高校生活が君自身の大きな人生の飛躍への道標にならんことを祈念して式辞といたします。

令和四年四月七日

長野県蓼科高等学校長

吉澤健二